

清水町遺跡 現地説明会資料

平成 22 年 9 月 10 日（金）

（財）松山市文化・スポーツ振興財団
埋蔵文化財センター

清水町遺跡は、民間の宅地開発に伴い実施した埋蔵文化財の発掘調査です。調査では弥生時代前期（BC. 2 世紀）の竪穴住居や、平安時代後期（11～12 世紀）の溝が発見されました。同遺跡が所在する『道後城北地区』西方域は発掘調査事例が少なく、今回の調査成果は清水町周辺地域の集落様相や広がり

1. はじめに

清水町遺跡は松山平野中央部、旧石手川の氾濫によって形成された扇状地上、標高約 24 m に立地しています。同遺跡が所在する道後城北地区は松山平野でも有数の遺跡地帯として知られており、文京遺跡（愛媛大学構内）や松山大学構内遺跡、松山北高等学校構内遺跡などからは弥生時代から古墳時代のたてあな竪穴住居や掘立柱建物をはじめ、数多くの集落関連遺構や遺物が発見されています。

2. 調査の概要

調査では弥生時代の竪穴住居（SB）1 棟と平安時代の溝（SD）2 条のほか、柱穴（SP）6 基を検出しました。SB 1 は推定直径 5 m を測る円形竪穴住居で、住居内からは弥生土器の破片や石器が出土しました。住居床面からは屋根を支えるための柱を建てた穴（柱穴）2 基が発見され、その配置から SB 1 は 6 本ないし 8 本の柱をもった住居構造であったと考えられます。

次に、SD 1 は検出幅 2 m、深さ 50cm を測る真北方向に延びる溝で、溝底面には径 1～5 cm 大の河原石が敷き詰められていました。敷き詰められた石の上面付近には厚さ 5 cm ほどの砂の堆積が見られたことから、溝内には緩やかに水が流れていたものと推測されます。また、溝内には暗灰色の粘質土や黄褐色土、灰色土などが混在して堆積していることや、古墳時代から平安時代に使用された土器が混在して出土したことから、SD 1 は人為的に埋め戻された溝と考えられます。なお、敷石上面付近からは土器のほかに種実（桃の種）が 10 数個出土しました。また、出土品には緑釉陶器や瓦が含まれており、遺跡周辺には寺院跡や屋敷跡などが存在する可能性が考えられます。

一方、SD 2 は検出幅 80cm、深さ 30cm を測る南北方向の溝で、土層観察の結果、SD 1 構築以前に掘削された溝であることが判明しました。溝内からは古墳時代から平安時代までの土器が混在して出土したことから SD 1 と同様、人為的に埋め戻された溝と考えられます。溝内には砂の堆積は見られず、空掘りの濠として機能していたものと推測されます。

溝 SD 1 と SD 2 は共に真北方向を指向していることや、直線的に掘削されていることなどから、何らかの施設に伴う遺構、もしくは地割りに関連する遺構ではないかと考えられます。これまで、遺跡周辺での調査事例は乏しく断定はできませんが、今後、近隣地域の調査等により溝の性格や構造等が明らかになるものと思われます。末尾になりましたが、今回の調査にあたり多大なる協力を頂いたコウテイ建設様、及びアトリエ A A 様には心より厚く御礼申し上げます。



第 1 図 道後城北地区の主要遺跡分布図（S=1:25,000）

- 遺跡名
- 1 祝谷丸山遺跡
 - 2 道後冠山遺跡
 - 3 土居窪遺跡
 - 4 土居ノ段遺跡
 - 5 道後樋又遺跡（1 次）
 - 6 文京遺跡（8 次）
 - 7 文京遺跡（9 次）
 - 8 文京遺跡（11 次）
 - 9 文京遺跡（4 次）
 - 10 持田遺跡
 - 11 御幸寺山東麓遺跡
 - 12 道後姫塚遺跡
 - 13 道後鷺谷遺跡
 - 14 道後今市遺跡
 - 15 祝谷六丁場遺跡
 - 16 祝谷六丁目遺跡
 - 17 祝谷大地ヶ田遺跡
 - 18 松山大学構内遺跡（2 次）
 - 19 松山北高遺跡
 - 20 若草町遺跡
 - 21 カキツバタ遺跡
 - 22 湯ノ山廃寺
 - 23 内代廃寺
- 清水町遺跡



写真 1 遺構完掘状況（南より）



写真 2 作業風景

【時代区分】

BC.3 世紀 AD.3 世紀 4 世紀 6 世紀 7 世紀 8 世紀 9 世紀 12 世紀
弥生時代 / 古墳時代 / 飛鳥時代 / 奈良時代 / 平安時代

〔清水町遺跡〕

所在地：松山市清水町二丁目 20 番 16、20 番 25 の各一部
 調査面積：約 77.5m²
 調査期間：平成 22 年 8 月 16 日～同年 9 月 15 日
 調査担当：(財)松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター
 調査員 宮内 慎一



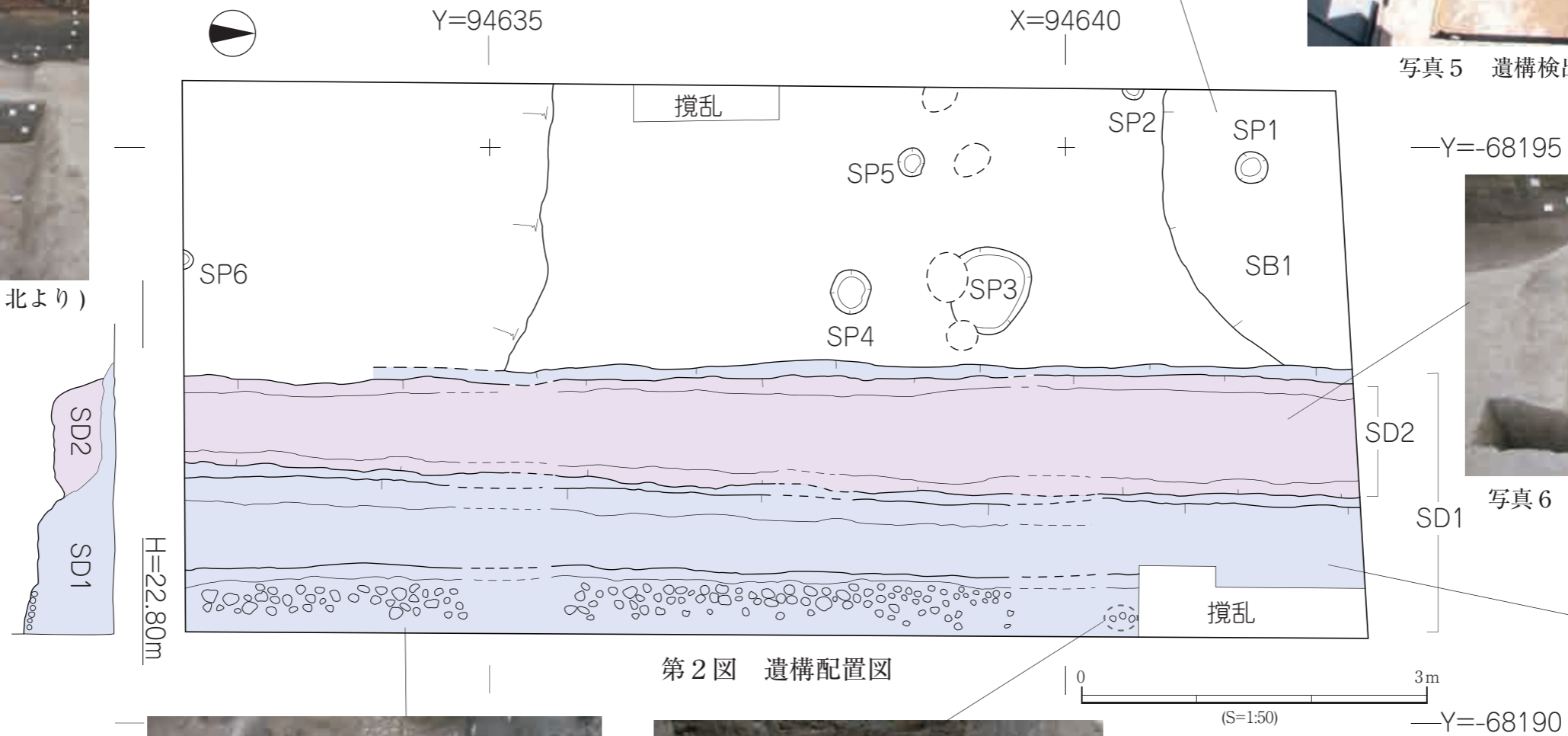
写真4 SB1 検出状況 (南より)



写真5 遺構検出状況 (南より)



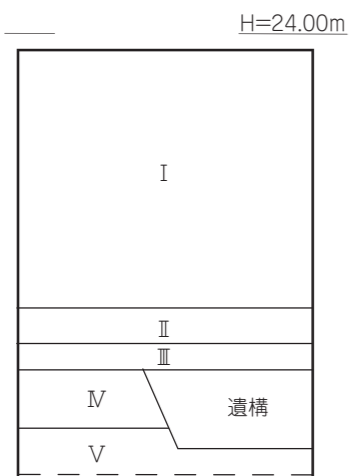
写真3 SD1・2断面写真(北より)



第2図 遺構配置図



写真6 SD2 完掘状況 (南より)



第3図 土層模式図 (S=1:20)



写真9 SD1 敷石検出状況 (南より)



写真8 SD1 瓦出土状況 (西より)



写真7 SD1 完掘状況 (南西より)